農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とっとり農業戦略課 研究・普及推進室　まとめ

平成29年4月14日　現在

【強風、霜等の対策については、「春季における農業技術対策」を参考にして行う】

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	・農業試験場「しゅんれい」は11／4播種で4／10出穂期。平年に比べると3日程度早く、茎数は2割程度少ないが、穂長が長いことから平年並の収量が見込まれる。 ・現地の「しゅんれい」の生育は順調で目立った障害は見られていない。 ・問題となる病虫害の発生は見られていない。	・技術情報に基づく排水対策や病害防除の徹底を図る。
果樹	なし	・ハウス栽培の二十世紀は4月6日頃から受粉作業が始まり、9日頃までにほぼ終了した。 ・露地栽培の受粉作業は14日頃から始まり、平地では16日頃が中心となると思われる。	・引き続き、霜害に注意する。 ・黒星病、ケムシの被害に注意する。
	かき	・河原試験地のカキの展葉状況は、展葉初めが「輝太郎」4月11日（昨年4月8日、平年4月12日）、「西条」4月15日（昨年4月9日、平年4月12日）、「富有」4月14日（昨年4月8日、平年4月12日）で、平年より2、3日遅い生育となっている。 ・霜害等の被害は見られない。	・引き続き、霜害に注意する。
	ぶどう	・無加温「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」は展葉5～6枚程度で、昨年より4～5日、平年より2～3日遅い。 ・無加温「デラウエア」のジベレリン処理は、4月8日頃から始まっている。 ・風害、霜害、目立った病害虫の発生はない。	・引き続き霜害に注意する。 ・ハウスでは春の突風に注意し、バンドの締め直しや傷んだ部分の補強を行う。
野菜	白ねぎ	（春ネギ） 雪害の影響から徐々に回復しているが、出荷量はまだ前年の8程度である。品質は2L中心で良好。さび病などの発生はほとんどない。 （夏ネギ） トンネル栽培は生育良好。無トンネル栽培も積雪の影響も回復し順調。 （秋冬ネギ） 順調に播種、育苗が進んでいる。	・春ネギの収穫進捗が例年より遅れているため、抽台の発生に注意し早期収穫に努める。 ・サビ病、べと病の予防防除を徹底する。 ・気温の上昇とともにアザミウマ類、ネギハモグリバエが急速に増加するため、4月下旬以降の防除を徹底する。 ・定植予定のほ場の排水対策を徹底する。 ・定植後の乾燥は初期生育の停滞につながるため、必要に応じて潅水する。
	スイカ	・トンネル栽培の定植は遅れる事無くほぼ終了。 ・ハウス、トンネル栽培とも生育はおおむね順調。 ・ハウス栽培で交配が早いところで4月12日頃から始まっている。本格的には17日頃から交配。	・一日の中の気温の変化が著しいため、ハウスやトンネルの換気管理をこまめに行う。 ・保温対策 　夕方早めに閉めるなどし、保温に努める。交配期間中と果実肥大初期も夜間の保温を徹底する。 ・日中の高温対策 　晴天日（気温の低い場合は特に）は、風下側を換気して急激な気温上昇による葉焼けを起こさないように注意する。 ・病害虫の予防防除を徹底する。
	ブロッコリー	・4月どり作型は天候の回復とともに生育も回復。大きな遅れは無く出荷されている。 ・初夏どりブロッコリーの定植はほぼ終了し、順調に生育している。	・病害中の発生に注意し、防除を徹底する。 ・強風による倒伏が予想される場合は、早めに土寄せを行う。
	ラッキョウ	（福部地区） ・4月10日生育調査平年比 ラクダ系：㎡球重113%、、㎡球数92%、1株球重98%、1株分数79%。 分球数がやや少ないが、重量はほぼ平年並みとなっている。 （北栄地区） ・4月14日生育調査平年比 ラクダ系：㎡球重91%、㎡球数107%、1株球重89%、1株球数108%。玉系：㎡球重76%、㎡球数81%、1株球重79%、1株球数82%。 分球数は平年よりやや多いが1球重が少なく㎡球重が平年の9割程度。玉系は平年より生育がやや遅れている。	・灰色カビ病の防除を徹底し、健全葉の確保に努める。 ・玉肥大の促進のため、積極的なかん水を行う。
花き	シンテッポウユリ	・セル育苗（八頭町、智頭町）、地床育苗（倉吉市）とも生育は順調で、2葉程度。西部（大山町）では過湿による生育障害が見られる。 ・中国産と国産（富山県産）種子の発芽率が大きく異なり、富山県産は発芽率、生育とも中国産種子に劣る。国産種子のみの利用者は十分な苗の確保が難しい状況となっている。一部では購入の動きもある。	・肥料切れを避けるため、灌水代わりに適宜液肥を施用しする。ただし、過湿には十分注意する。 ・徒長防止のため、夜間もハウスを開放し、可能な限り低温で育苗する。 ・病害虫防除を徹底し、特に葉枯れ病の防除に留意する。
	リンドウ	・萌芽が始まり、早生系では15～20cm程度に伸長している。萌芽は例年よりやや遅いが、気温の上昇に伴い順調に生育している。 ・育苗も特に問題はなく、発芽、セル育苗も順調。	・初期の葉枯れ病防除を徹底する。
飼料作物	飼料用とうもろこし	・作付ほ場の準備中、堆肥散布、すき込み作業が開始されている。	・6月中下旬まで、作付け計画に基づいた播種作業が続く。
	イタリアン	・草丈5～20cmで、生育は例年よりやや遅い。	・収穫は5月中下旬から始まる見込み。